

ISSN-1348-8872

AMAMI News Letter

NO.2



■研究調査レビュー

神田嘉延編の出版の紹介と奄美研究の課題

「環境問題と地域の自立的発展」(高文堂)

貝塚時代後期土器と貝符

段階補正のなかの市町村経済——奄美群島区の経済モデル——

奄美ニューズレター

鹿児島大学

2004年1月

ISSN-1348-8872

AMAMI News Letter

No.2

January, 2004

Contents

■ Research Review

An environment problem and independence development of
community : mainly on an example of AMAMI and Okinawa

—————1

KANDA Yoshinobu (Faculty of Education, KAGOSHIMA Univ.)

A Study on the Later Shellmidden Period Pottery and Shell
Pendant—————7

NAKAMURA Naoko (Faculty of LEH, KAGOSHIMA Univ.)

Forecast of Economy of AMAMI 2020—————16

HAGINO Makoto (Faculty of LEH, KAGOSHIMA Univ.)

■ Information—————25

KAGOSHIMA UNIVERSITY

奄美ニューズレターについて

- 奄美ニューズレターは、2003年度からはじまった鹿児島大学全学総合プロジェクト「島嶼圏開発のグランドデザイン---南西諸島における環境ガバナンス型地域政策」の成果を発表する目的で発刊されました。
- 奄美群島および沖縄を含む広い南西諸島を沖縄ではなく、奄美群島から分析しようという新しい試みです。
- 研究は、文化・自然・人・経済・情報・農学・工学という鹿児島大学の研究者を中心とする研究グループによって行われております。奄美ニューズレターは、その研究を広く南西諸島の研究者に公開し、わが国の島嶼研究の向上を目指すものです。
- 奄美ニューズレターは、月刊の学術雑誌であり、下記の内容を毎号掲載いたします。
 - ・研究調査レビュー 鹿児島大学研究グループの成果発表
 - ・しまゆむた 奄美群島区の地元研究者からの現地レポート
 - ・島嶼スケッチ 上記以外の寄稿文
 - ・鹿大資料紹介 鹿児島大学所蔵奄美資料の紹介
 - ・ちーびし 執筆者紹介、奄美関連の行事案内、編集後記
- 奄美ニューズレターの執筆研究グループは以下のメンバーです。

研究代表 山田 誠 (法文) 編集代表 萩野 誠 (法文)
- 島嶼のなかの人々、人々のなかの島嶼 (資源としてのヒト)
 - ◎神田嘉延 (教育)・小柳正司 (教育)・狩野浩二 (教育)・前田晶子 (教育)
- 島嶼における情報ネットワーク (資源としての情報)
 - ◎萩野 誠 (法文)・下園幸一 (法文)
- 自然環境と開発ポテンシャルA (資源としての自然)
 - ◎北村良介 (工学)・地頭蘭隆 (農学)・西隆一郎 (工学)
- 自然環境と開発ポテンシャルB (環境保全型自立産業としての農業生産)
 - ◎菅沼俊彦 (農学)・津田勝男 (農学)・遠城道雄 (農学)
- 歴史の変容と開発
 - ◎新田栄治 (法文)・糸尾達哉 (法文)・原口 泉 (法文)・中村直子 (埋文)
- 産業・経済の変容と開発
 - ◎皆村武一 (法文)・宮廻甫允 (法文)・北崎浩嗣 (法文)・山本一哉 (法文)
- 社会意識の変容と開発
 - ◎石川英昭 (法文)・木村 朗 (法文)・平井一臣 (法文)・米田健一 (法文)
- 文化意識の変容と開発
 - ◎廣瀬晋也 (法文)・木部暢子 (法文)・桑原季雄 (法文)・高津 孝 (法文)
- 島嶼コミュニティと環境ガバナンス
 - ◎篠原隆弘 (法文)・采女博文 (法文)・土居正典 (法文)・西啓一郎 (法文)
- 島嶼圏政治行政システムと環境ガバナンス
 - ◎山田 誠 (法文)・朴 源 (法文)・坂田裕輔 (法文)・前利 潔 (知名町)

目次

■研究調査レビュー

神田嘉延編の出版の紹介と奄美研究の課題

「環境問題と地域の自立的発展」(高文堂)

神田 嘉延 (鹿児島大学教育学部)—————1

貝塚時代後期土器と貝符

中村 直子 (鹿児島大学埋蔵文化財調査室)—————7

段階補正のなかの市町村経済－奄美群島区の経済モデル－

萩野 誠 (鹿児島大学法文学部)—————16

■ちーびし—————25

